

参考資料

## 2012年度第3四半期 業績の概要

---

2013年2月14日

ソニー銀行株式会社

# 損益の状況(1):財務会計ベース

## <連結・単体>

金額は億円未満切捨て(役員取引等収支を除く)、増減率は四捨五入で表示

(億円)

### <連結>

#### ● 連結業務粗利益

前年同期比2億円増加の153億円。  
 主な要因は、住宅ローンを中心とした貸出資産の拡大と、スマートリンクネットワークの子会社化(2011年7月)。

#### ● 連結経常利益

前年同期比横ばいの28億円。

#### ● 連結四半期純利益

前年同期比11億円増加の22億円。  
 ソニーバンク証券の譲渡(2012年8月)に伴う税効果により増益。

### <単体>

#### ● 業務粗利益

前年同期比3億円減少の133億円。  
 住宅ローン取引に係る利益は増加したものの、外貨関連取引に係る利益が減少。

#### ● 経常利益

前年同期比2億円減少の26億円。

#### ● 四半期純利益

前年同期比17億円減少の▲1億円。  
 ソニーバンク証券株式の譲渡に係る損失発生により、純損失を計上。

	<9ヶ月累計>	2011年度 3Q	2012年度 3Q	前年同期比	
連結	業務粗利益	150	153	+2	+1.9%
	経常利益	29	28	▲0	▲0.9%
	四半期純利益	11	22	+11	+95.0%

単体	業務粗利益	136	133	▲3	▲2.2%
	資金運用収支	120	131	+10	+8.9%
	役員取引等収支	0.7	▲0.0	▲0.7	—
	その他業務収支	14	1	▲12	▲86.8%
	営業経費	102	105	+3	+3.0%
	経常利益	29	26	▲2	▲8.9%
	四半期純利益	16	▲1	▲17	—
	業務純益	31	28	▲3	▲11.3%

## 損益の状況(2): 社内管理ベース

<単体>

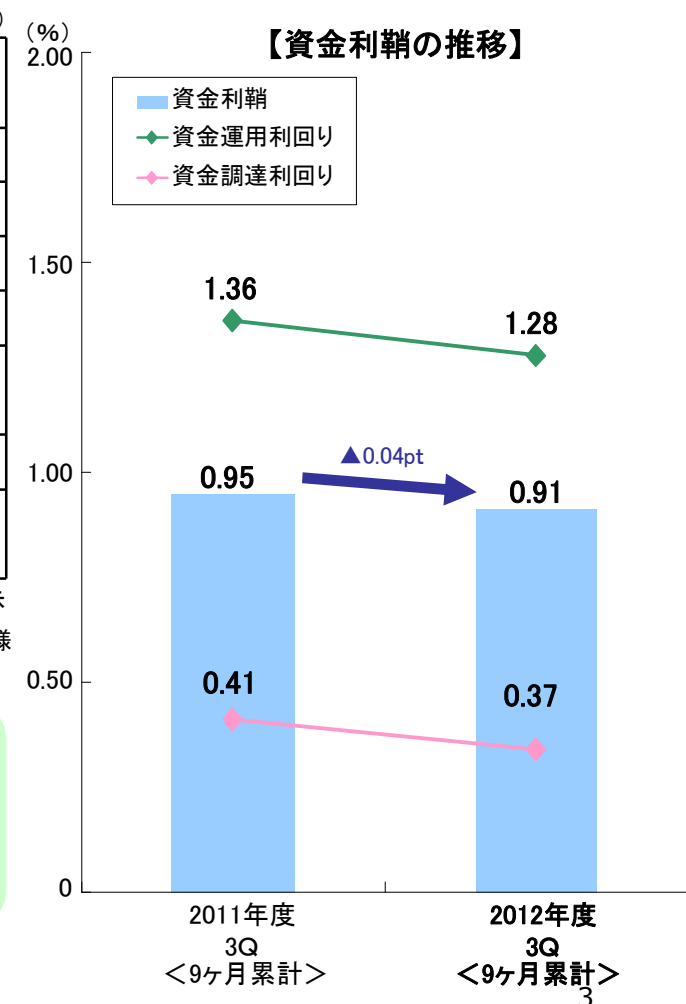
- 資金利鞘は前年同期比やや縮小したものの、資金収支は業容の拡大により前年同期比4億円増加。
- 手数料等収支は、外貨関連取引に係る利益が減少し、同3億円減少。

<9ヶ月累計>	(億円)		前年同期比	
	2011年度 3Q	2012年度 3Q		(%)
業務粗利益	135	132	▲3	▲2.2%
資金収支*1①	126	130	+4	+3.3%
手数料等収支*2②	7	4	▲3	▲42.0%
その他収支*3	1	▲2	▲3	—
コアベース業務粗利益(A) =①+②	134	135	+0	+0.6%
営業経費等③	104	104	+0	+0.6%
コアベース業務純益 = (A) - ③	30	30	+0	+0.9%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

※当期より、社内管理ベースの算出方法を一部変更しました。そのため、2011年度3Qにつきましても、当期と同様の算出を行った場合の金額を記載しています。

- 社内管理ベース 損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの
  - \*1 資金収支…資金運用収支+その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)
  - \*2 手数料等収支…役員取引等収支+その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益
  - \*3 その他収支…その他業務収支より\*1と\*2の調整分を控除したもの。主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益
- コアベース 社内管理ベースのその他収支(主に債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、当社の基礎的な収益を表すもの

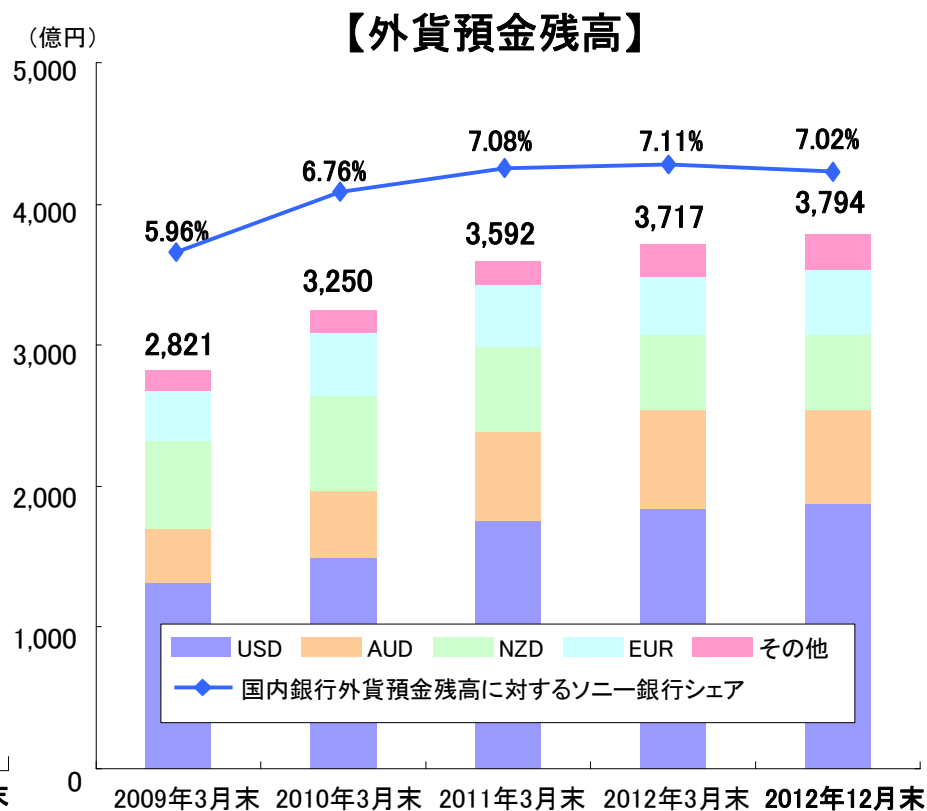
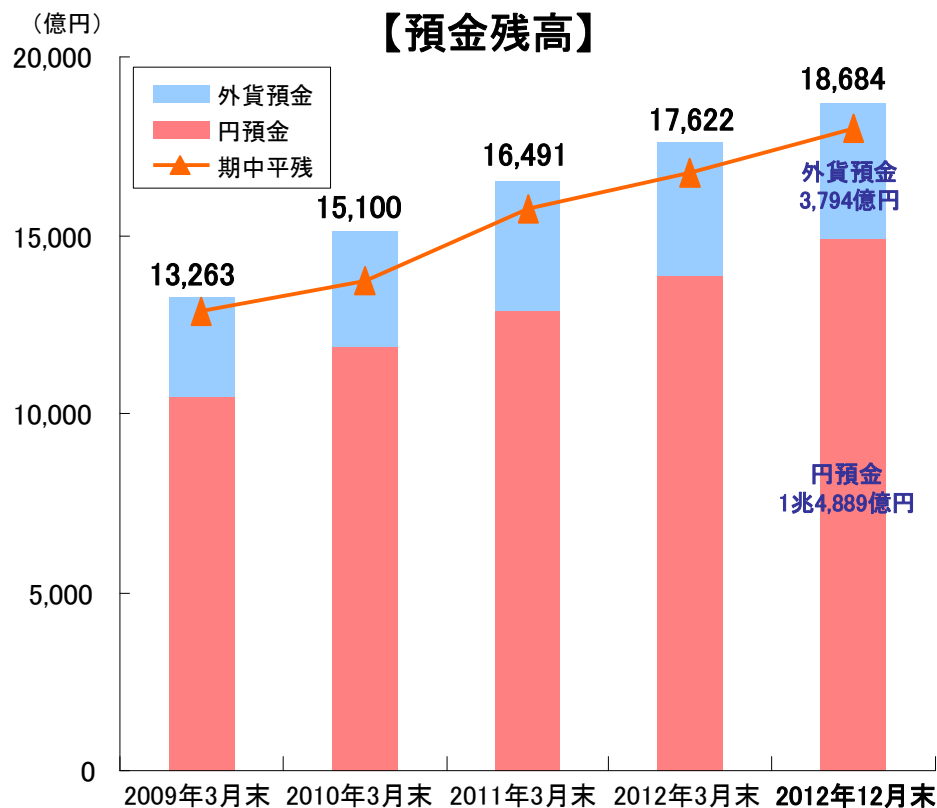


# 預金の状況

< 単体 >

- 預金残高は前年度末比1,061億円増加の1兆8,684億円。円預金は夏のボーナスシーズン特別企画効果などにより同983億円増加。外貨預金は昨年12月末にかけての円安進行で外貨が売られたものの、円換算の影響(+193億円)により同77億円増加。
- 2012年12月末の預かり資産残高(預金+投資信託)は1兆9,730億円。

金額は億円未満切捨てで表示

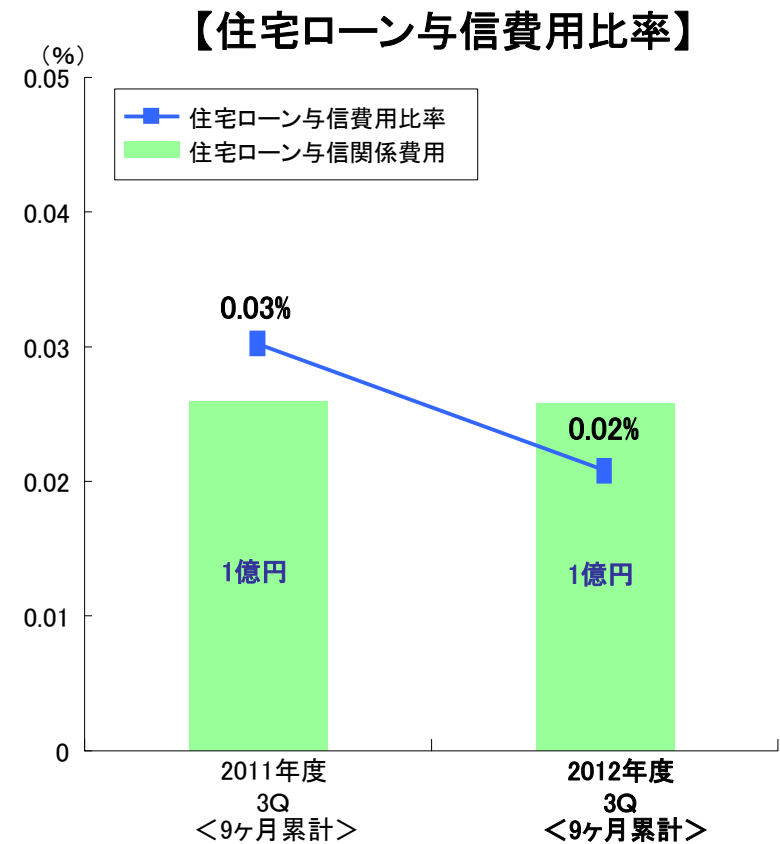
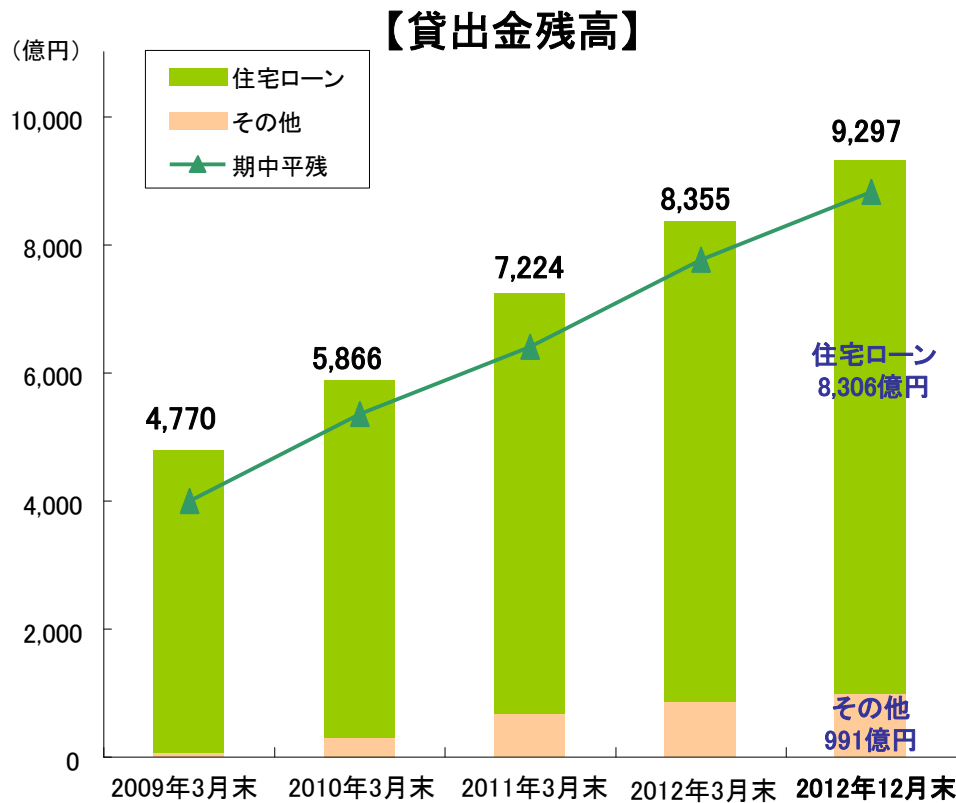


# 貸出金の状況

<単体>

- 貸出金は、住宅ローンが着実に増加し、前年度末比942億円増加の9,297億円。
- 住宅ローン与信費用比率は、前年同期に引き続き低水準を維持。

金額は億円未満切捨てで表示



※住宅ローン与信費用比率(年率換算) = 住宅ローン与信関係費用 ÷ 住宅ローン平残  
 ※住宅ローン与信関係費用 = 貸出金償却(住宅ローン) + 貸倒引当金繰入額(住宅ローン)

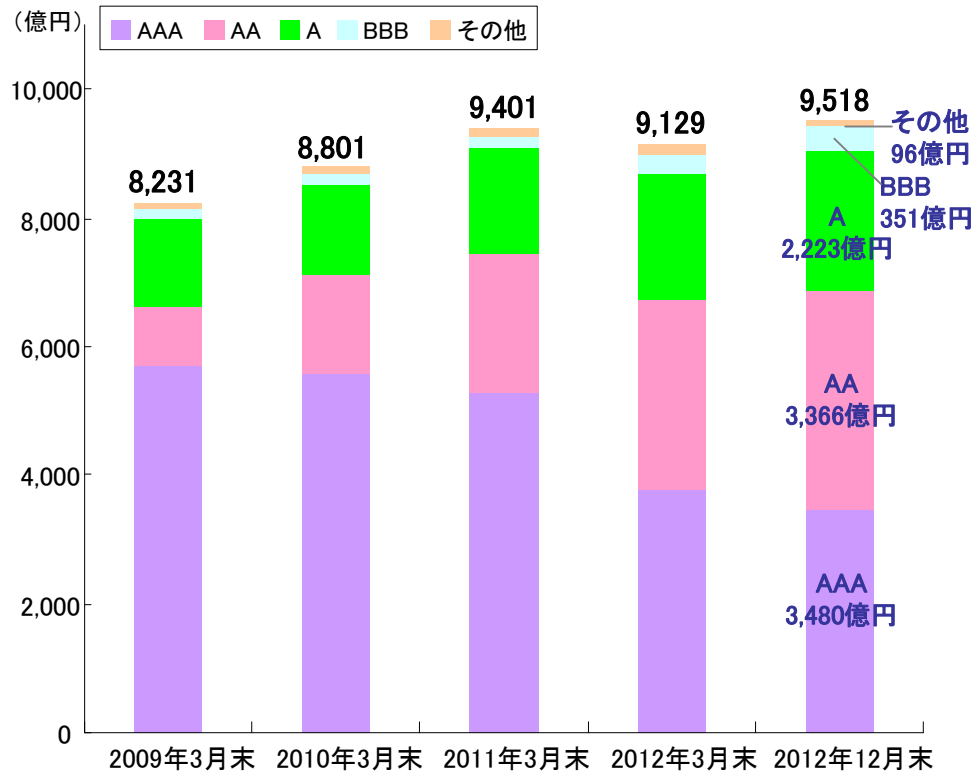
# 有価証券の状況

< 単体 >

- 有価証券は、高格付けの債券で安定的に運用。引き続き、AAA～A格の債券が全体の9割強を占める。
- その他有価証券評価差額金(税効果会計適用前)は62億円。

金額は億円未満切捨てで表示

【有価証券残高(格付け別)】



【その他有価証券の内訳】 (億円)

	2012年3月末	2012年12月末
債券	5,079	5,011
国債	1,945	2,128
地方債	291	611
社債	2,842	2,272
その他	3,849	4,402
外国債券	3,764	4,336
その他の証券	85	65
合計	8,929	9,414
< その他有価証券評価差額金 (税効果会計適用前) >	< 26 >	< 62 >

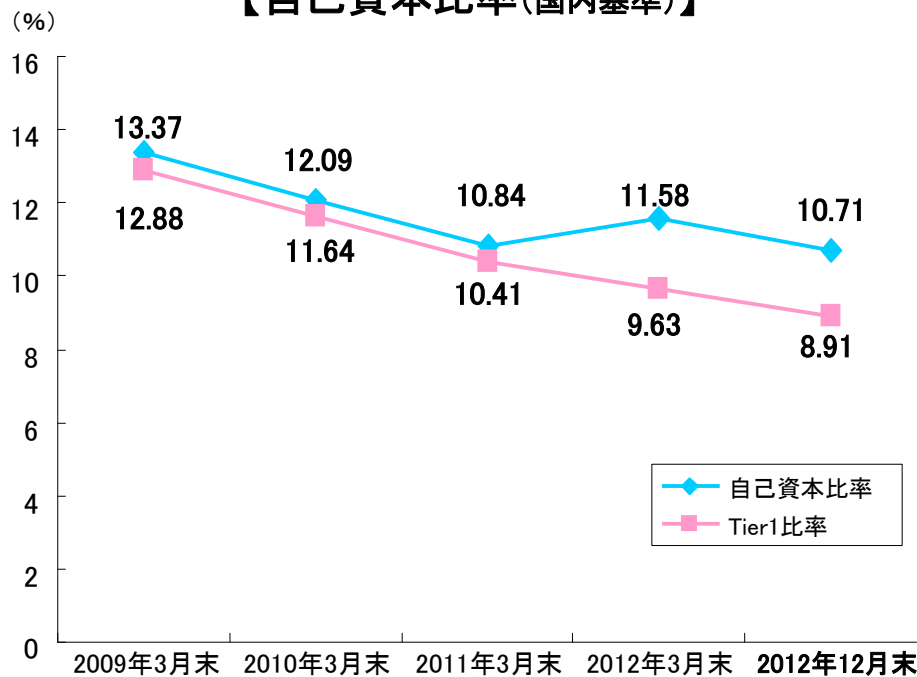
※時価のあるその他有価証券の貸借対照表計上額内訳

# 自己資本比率・格付け情報

< 単体 >

- 自己資本比率は10.71%と、健全な水準を維持。

【自己資本比率(国内基準)】



【格付け(2012年12月末現在)】

スタンダード&プアーズ	
長期カウンターパーティー格付け「A」	アウトルック「安定的」
短期カウンターパーティー格付け「A-1」	
日本格付研究所	
長期優先債務格付け「AA-」	見通し「安定的」

※平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出している。また、2011年度までは平成20年金融庁告示第79号を適用しており、2012年度以降は平成24年金融庁告示第56号を適用している。